

1 主要実施内容の解説

- ①是正対象は問題発生時点に現場へ行く:現場観察5Mと5W1H、5Why?による解析と事実確認+原理図化によるメカニズム解析 → 見える化解析～原因除去対策へ
- ②予防対策は原理図を明確にする:完全生産の形でチェックリストをつくり現場確認～不良発生予備軍となる不安・ヒヤットの撲滅 → 危険度を評価ハザードMAP化
- ③新製品対象製品はDR対策 → 全体構成と個々の部品構成の関連・機能見える化へITシミュレーションなど(CAEなどで事前確認見える化へ)

2 作成プロセス

